

2011年4月27日

九州新幹線全線開業後の利用状況について

株式会社 鹿児島地域経済研究所

当研究所は、九州新幹線乗降客に対するアンケート調査を実施し、全線開業後の利用状況について調査結果をまとめた。

今回の調査結果によると、全利用客のうち鹿児島県居住者は38.4%、他県居住者は61.6%となり、部分開業2年後の2006年の調査以来、5年ぶりに他県居住者の利用が本県居住者の利用を上回った。

居住地別にみると、福岡県や九州外の居住者の利用割合が増えており、特に九州新幹線全線開業と同時に相互直通運転が開始された山陽新幹線沿線の居住者の利用割合が増加した。また、本県居住者の目的地は県外（福岡県や山陽新幹線沿線府県）の割合が増えた。

利用目的をみると、全利用客では「ビジネス」利用の割合が減少する一方で、「観光・レジャー」「帰省」の利用割合が増加した。居住地別の利用目的をみると、本県居住者の利用目的は、部分開業6年後の前回調査の結果と比較して大きな変化はみられなかったが、他県居住者の利用目的は「観光・レジャー」が38.1%と大幅に増加した。

また、利用頻度は「初めて」の割合が大きく増加し、特に他県居住者の58.5%が「初めて」利用したと回答した。本県居住者の利用頻度を移動別にみると、県外移動では「初めて」の割合が約4割と大きく増加した。一方で、県内移動では前回調査同様、約3分の1が「ほぼ毎日利用」と回答した。

他県居住者の日帰り・宿泊状況を利用目的別にみると、「ビジネス」では日帰りの割合がやや増加し、「観光・レジャー」では有料宿泊の割合が増加した。

さらに本調査では、「観光・レジャー」目的で来鹿した他県居住者（以下「県外観光客」）に対して、鹿児島での観光についてアンケートを実施した。

それによると、県外観光客の目的地は「鹿児島市内」が67.8%と最も多かった。以下、「指宿（39.5%）」「種子屋久（8.9%）」「霧島（8.3%）」の順となった。

また、観光の目的は「温泉」が50.3%と最も多く、「自然・景観」「料理・グルメ」がそれに続く。さらに、観光地・観光施設の情報収集手段は、「インターネット」の利用割合が43.8%と最も高く、次いで「旅行代理店（26.7%）」「雑誌広告（14.2%）」の順となった。

株式会社 鹿児島地域経済研究所

1. 調査概要

- ①調査目的 : 九州新幹線の利用状況を把握し、今後の観光振興などに生かしてもらうことを狙いに、毎年 3 月に実施している。今回は全線開業直後の調査であり、過去の部分開業時の調査結果との比較検討も行った。
- ②調査実施日 : 2011 年 3 月 23 日 (水) ・ 25 日 (金) ・ 26 日 (土) ・ 27 日 (日)
の 4 日間、各 9 : 00 ~ 10 : 30、14 : 00 ~ 15 : 30、18 : 30 ~ 20 : 00 の時間帯
- ③調査場所 : 鹿児島中央駅の新幹線改札内コンコース
- ④調査対象 : 調査期間中の九州新幹線乗降客から無作為抽出
- ⑤有効回答 : 2,180 件 (うち県外観光客 314 件)
- ⑥調査方法 : 面接による直接聞き取り

2. アンケート結果

(1) 居住地別利用者割合の推移

- ・ 全線開業後の他県居住者の利用割合は 61.6% となり、部分開業 2 年後の 2006 年調査以来 5 年ぶりに本県居住者 (38.4%) の利用割合を上回った。福岡県や九州外の居住者の利用割合が増えており、特に九州新幹線全線開業と同時に相互直通運転が開始された山陽新幹線沿線の居住者の利用割合が増加した (図表 1)。
- ・ 本県居住者の目的地をみると、県外 (福岡県や山陽新幹線沿線府県) の割合が増えた (図表 2)。

(2) 利用目的別利用者割合の推移

- ・ 全線開業後の利用目的別構成比をみると、全利用客では「ビジネス」の利用割合が減少する一方で、「観光・レジャー」「帰省」の利用割合が増加した (図表 3)。
- ・ 居住地別の利用目的をみると、本県居住者の利用目的は部分開業 6 年後の前回調査の結果と比較して大きな変化はみられなかったものの、他県居住者の利用目的は「観光・レジャー」が大幅に増加した (図表 3)。
- ・ 本県居住者の利用目的を移動別にみると、部分開業 6 年後の前回調査と比較して、県内・県外移動ともに「ビジネス」「観光・レジャー」での利用が減少している。一方、県内移動の「通勤・通学」の割合は増加し、全体の 3 分の 1 以上を占めており、通勤・通学路線としても定着している。また、県外移動では「買い物」が増加した (図表 4)。
- ・ また、県内移動、県外移動ともに「その他」の利用割合が増えている。具体的には「友人・知人に会う」「飲み会」「冠婚葬祭」「通院」「親の介護」などがあり、利用目的が多様化していることがうかがえる。また、首都圏からの利用者で、「東日本大震災からの避難」とする回答も一部にみられた (図表 4)。

(3) 利用頻度の推移

- ・ 全線開業後の利用頻度は部分開業 6 年後の前回調査と比較して、全利用客、本県居住者、他県居住者のいずれも「初めて」が大幅に増加した。九州新幹線全線開業を機に、観光・レジャーなどで新幹線を利用する人が増えたものとみられる(図表 5)。
- ・ さらに、本県居住者を移動別にみると、県外移動では約 4 割の利用者が「初めて」と回答した。一方で、県内移動では前回調査同様、約 3 分の 1 が「ほぼ毎日」利用していると回答しており、通勤・通学など日常生活の移動手段としての存在感は依然として強いものと思われる(図表 6)。

(4) 他県居住者の日帰り・宿泊状況

- ・ 他県居住者の日帰り・宿泊状況を利用目的別にみると、「ビジネス」では日帰りの割合がやや増加し、「観光・レジャー」では有料宿泊の割合が増加した(図表 7)。

(5) 県外観光客へのアンケート

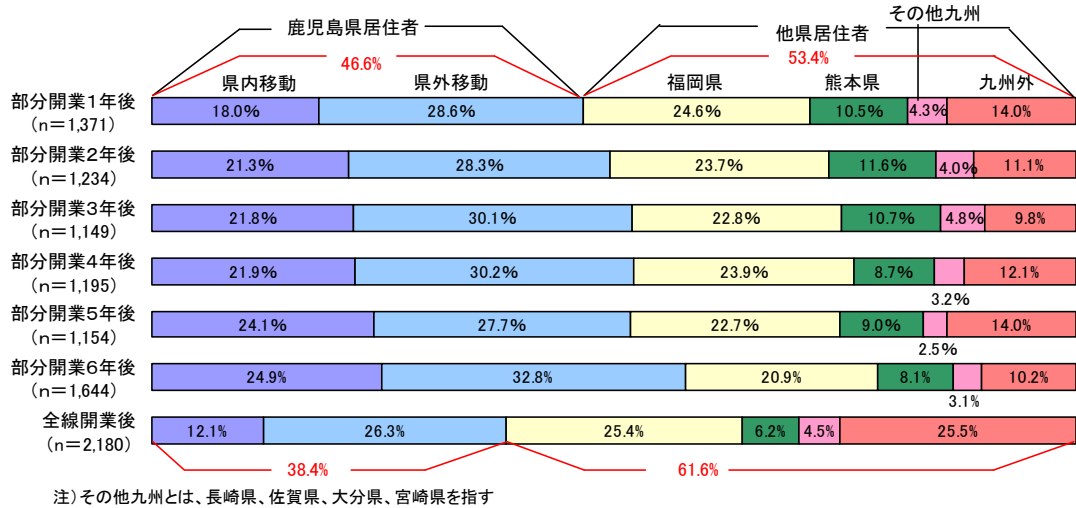
- ・ 県外観光客の目的地は、「鹿児島市内」が 67.8%と最も多く、以下、「指宿(39.5%)」「種子屋久(8.9%)」「霧島(8.3%)」の順となった。また、目的地を「鹿児島市内」とした県外観光客の 46.2%が桜島を訪れている。
- ・ 観光の目的は「温泉」が 50.3%と最も多く、「自然・景観」「料理・グルメ」がそれに続いた。
- ・ また、観光地・観光施設の情報収集手段は、「インターネット」の利用割合が 43.8%と最も高く、次いで「旅行代理店(26.7%)」「雑誌広告(14.2%)」の順となった。
- ・ 訪れた観光地ごとに満足度を 5 点満点で尋ねたところ、鹿児島市内(城山展望台や桜島、天文館、仙巖園など)、指宿、霧島、種子屋久ともに 4 点以上であり、各観光地、観光施設とも概ね好評であった。
- ・ 自由意見として、城山展望台や仙巖園から見る桜島、霧島・指宿の温泉などの観光資源や、旅館や観光タクシーでの接客態度などのおもてなしの心を高く評価する声があった。一方で、観光地での案内標識が見にくい、交通のアクセスが良くないなどといった指摘もみられた。

以上

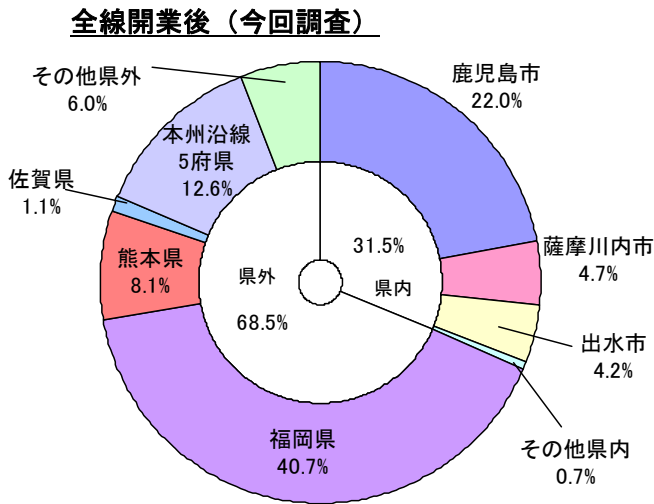
【本件に関するお問い合わせ】 経済調査部 (TEL 099-225-7491)

【新幹線利用状況調査図表】

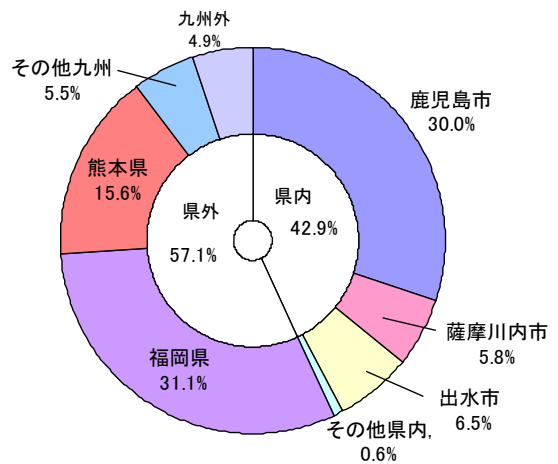
【図表 1】居住地別利用者割合



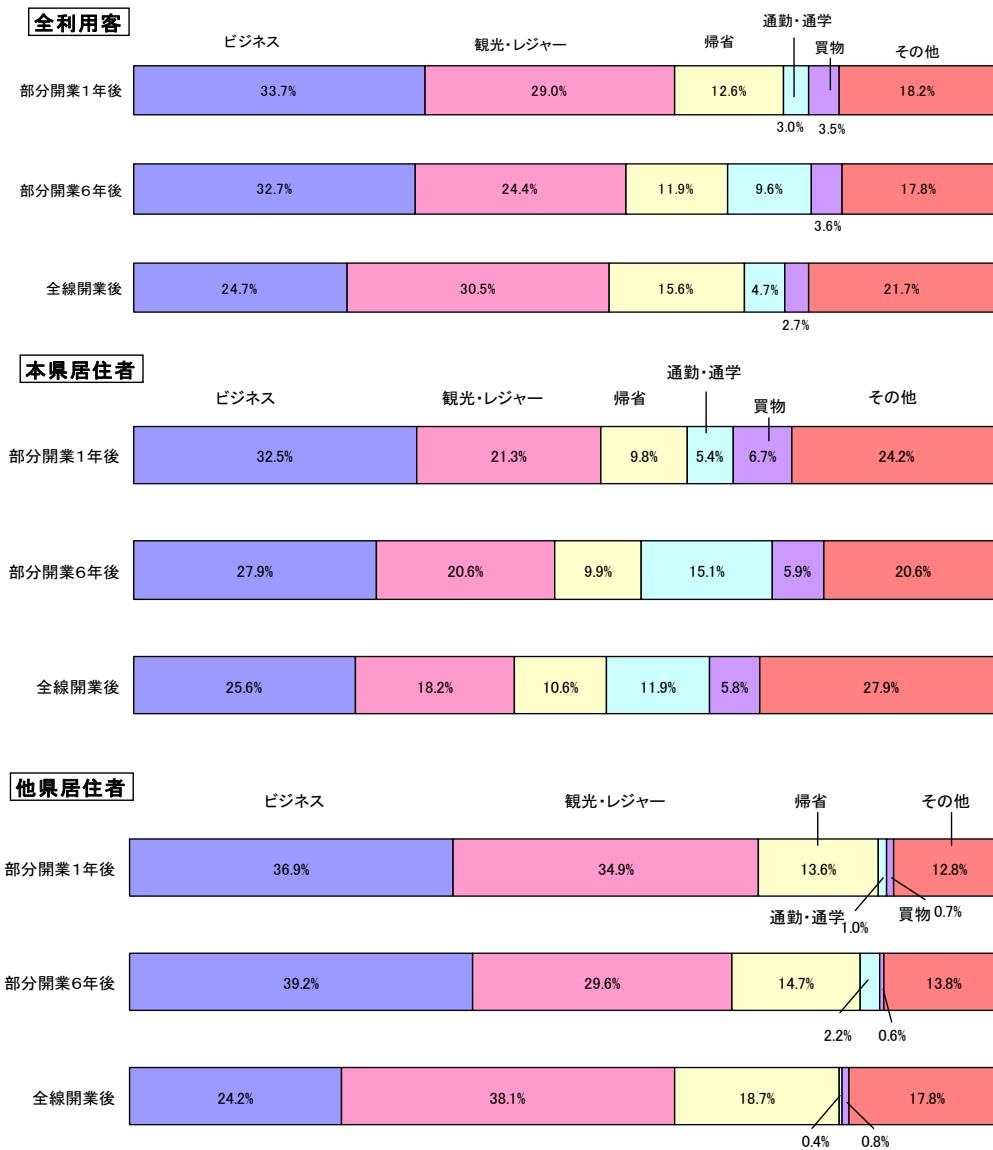
【図表 2】本県居住者の目的地



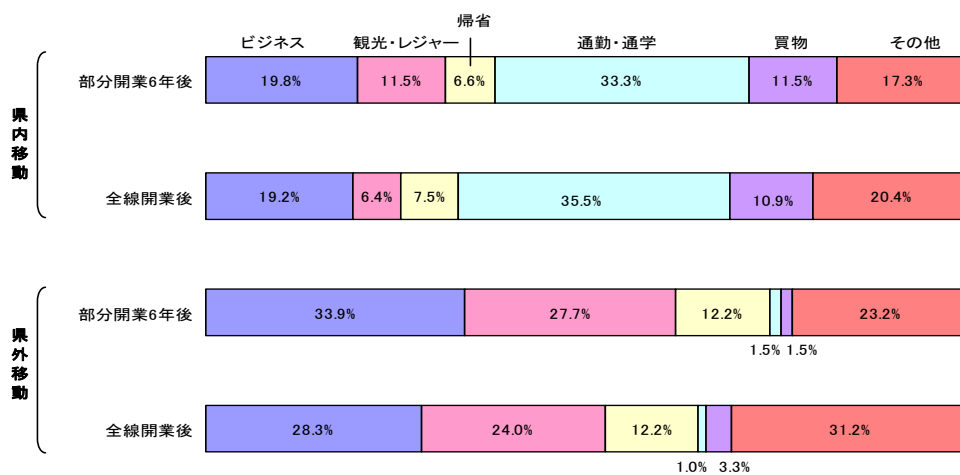
部分開業6年後（前回調査）



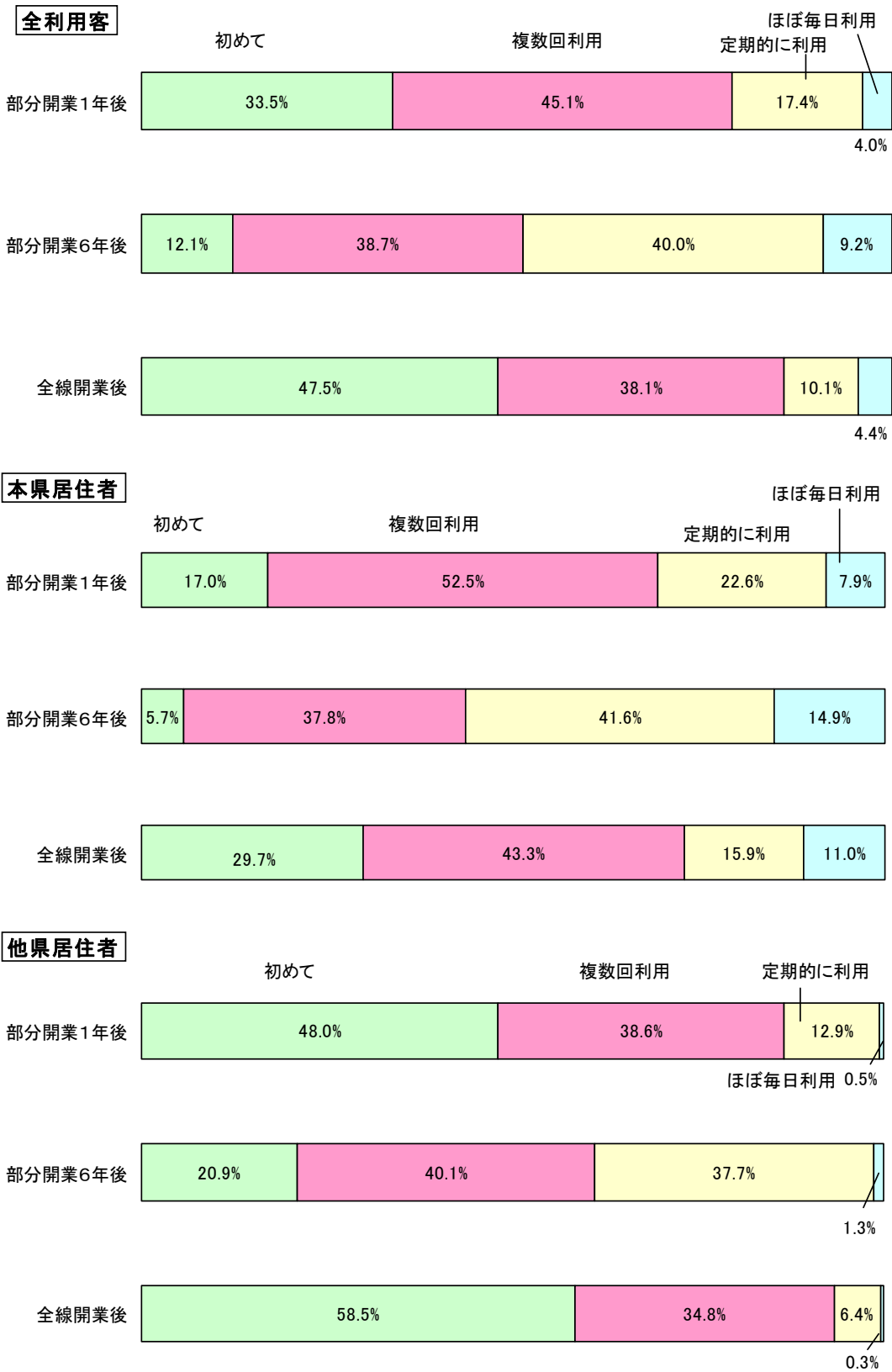
【図表3】利用目的別利用者割合



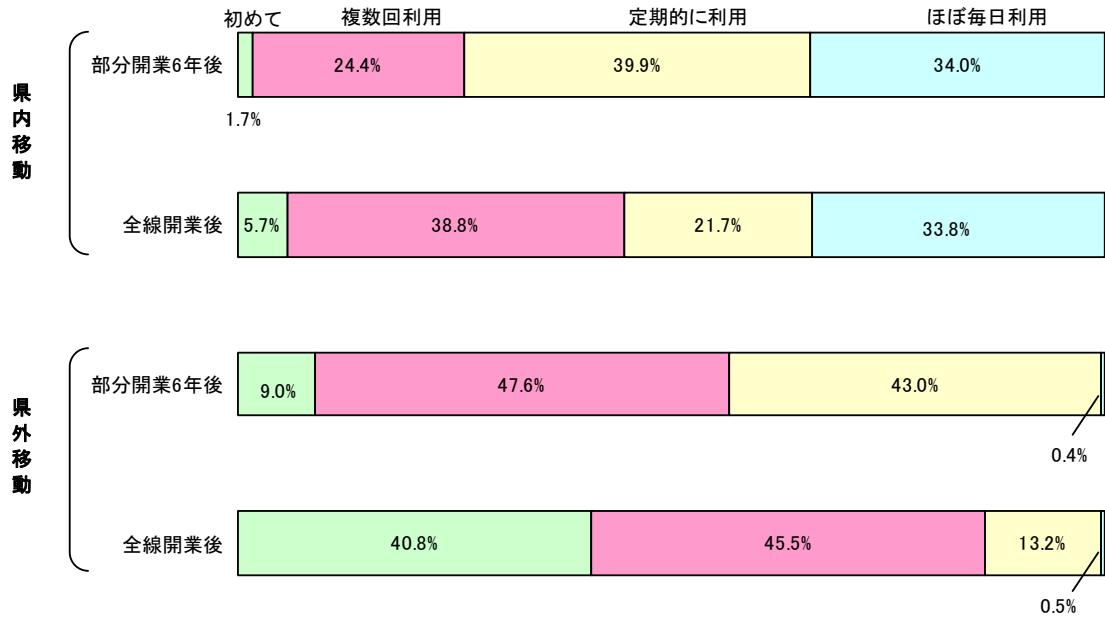
【図表4】本県居住者の移動別利用目的



【図表5】利用頻度別利用者割合



【図表6】 本県居住者の移動別利用頻度



【図表7】 他県居住者の利用目的別日帰り・宿泊状況

	日帰り		有料宿泊		無料宿泊	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
全体	26.6%	20.5%	52.5%	56.3%	20.9%	23.2%
観光・レジャー	25.2%	16.5%	70.9%	81.0%	3.9%	2.5%
ビジネス	29.8%	31.3%	67.3%	66.3%	2.9%	2.5%